

「死生学の諸問題」

参加自由

担当: 清水哲郎(東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター)
山崎浩司(信州大学医学部保健学科看護学専攻成人・老年看護学講座)

曜日・時限: 木・5-6 (午後4時50分～)

場所: 東京大学本郷キャンパス法文1号館215教室

概要: 死生学の諸問題に関して、参加者の自発的な研究発表とそれに基づく討議を行う。参加者は各自関心を持つテーマを選んで、発表を目指して調査・研究を進めることが望ましい。テーマとしては、臨床死生学および臨床倫理学の諸問題が中心となると予想されるが、これに限定されるわけではなく、参加者の自由な発想を期待する。通年で約10回開催予定。開催日は、同じく木・5-6時限目に同会場で行われる応用倫理研究3「『生命と価値』論のフロンティア」と重ならないように調整する。従って本演習・研究会の参加者には、応用倫理研究3にも参加することをお奨めする。具体的授業計画(発表者、テーマ、日時等)は、上廣死生学講座ホームページ(<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/dls/index-j.html>)に掲載する。

予定:

- 04月14日 第1回 清水哲郎・会田薫子 本人・家族のための意思決定プロセスノート
——人工的水分・栄養補給法の導入に関する選択を中心に
- 06月09日 第2回 宮崎貴久子・助川明子 小学校・中学校教科書における
「死」と「病」の記載調査
- 07月14日 第3回 木村美也子 知的障害児の母親の次子妊娠・出産及び
障害児ときょうだい児養育における困難と人生再構築
- 07月29日 第4回 シンポジウム「お産をめぐる喪失と生きがい」
【10:00～16:30 @山上会館2階大会議室 ★要参加申込★】
- 10月06日 第5回 鷹田佳典 医療現場における悲嘆の共同化をめぐって
——患者の死をめぐる看護職者の経験を中心に
- 11月17日 第6回 阿部俊一 辞世の句に見る死生観考察
- 12月15日 第7回 丁ユリ 新しい墓地としての納骨堂の役割と機能
——韓国の大都市と周辺部の納骨堂の事例を中心に
- 01月19日 第8回 本本ゆう インターネットと若者の自殺
- 02月02日 第9回 清家理 終末期意思決定と自律支援
——在宅医療における医療ソーシャルワークからの考察

昨年度の発表: 「緩和ケアへの移行と実践の円滑化にむけた研究とその背景—がん診療ガイドラインとQOL評価の課題」(宮崎喜久子)、「Pet Lovers Meeting 10年間の活動報告—日本で初めてのペットロス自助グループ」(梶原景月)、「リプロダクティブ・フリーダム再考—中絶の自己決定権をめぐって」(林千章)、「事前指示の有効性と最善の利益」(日笠晴香)、「ホスピス電話相談から見える癌患者の現状」(藤本啓子)、「口腔ケアと死生学—終末期患者の口腔ケアと死生学の意外な関係」(阪口英夫)、「ハンセン病胎児標本問題からの考察—生と死の合差から」(孫和代・花崎泉平・岡正勝)、「脳死者からの臓器移植」をテーマにした授業実践(高橋麻由)、「医療事故死遺族へのグリーフケア—医療者は「遺族」のグリーフワークをサポートできるのか」(打出喜義)、「石門心学における死生観—石田梅岩の思想を手がかりとして」(澤井努)、「生体肝移植ドナーへのインフォームド・コンセントの在り方についての考察」(永田明)